



利根山光人

Toneyama Kojin

記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

〒024-0043 岩手県北上市立花15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808

VIVA MEXICO ビバ・メヒコ



利根山光人アトリエ展 '80 ポスター

2023年

4月1日(土)-6月1日(木)

「台所に立っている私のうしろに少年のように直立し、メキシコに行きたいと言ってきたんです。行きたがっていることは感じていたけど、当時はそんなに裕福でもなく、『お金はどうするの?』と話しました。利根山は子供じみたところがあり、引く人ではなかったの。子供二人の学費にと貯めていたお金をもって片道切符でメキシコに行っちゃった。」

昨年5月29日に100歳で逝去された利根山彌恵子夫人はかつてこう語った。メキシコの魅力に取り憑かれ、少年のように純粋な心と行動力を持つ利根山画伯を端的に表すエピソードである。

1955年に東京国立博物館で開催された「メキシコ美術展」を契機に、多くの若いアーティストたちがメキシコに向かったが、利根山もその一人であった。メキシコの壁画運動に惹かれ、現地の画家シケイロスとも交流を重ねたが、利根山を最も惹きつけたのは古代文明だった。

「日本の反対側の地上にこんな恐ろしくも華麗な空間が広がって、いようとは考えてもいなかった。」

「私とマヤの出会いはある日、極めて唐突にやってきた。めくるめく白日の下で突然マヤの挑戦に出会ってしまったのだ。来てはいけない。マヤを見てはいけない。私は見なければよかったのだ。マヤのイメージーションがぐんぐんと私をひきよせる。」(メヒコ・マヒコ：利根山光人)

美術館にはメキシコの民芸品十数点が常設され、中庭にも陶製人形やマヤの石碑のレプリカが設置されるなど、そのメキシコ情緒が観客の注目を集めている。

利根山を惹きつけてやまなかったメキシコの魅力を来館者とともに語る事ができればありがたい。

関連展示として生涯学習センターギャラリーで、鬼の館所蔵メキシコの仮面20点を展示中。

令和5年度前期企画展

北上市所蔵利根山光人作品展

今年度の企画展

●中期企画展「つくる巨人」

岩間正男展 6/2(土)-8/31(木)

県内外に設置された大規模なオブジェや壁画でも知られる造形家岩間氏の制作活動を没後10年にして回顧する展示会。

●後期企画展「早池峰神楽を彫る」

谷内博司展 9/2(土)-11/30(木)

民俗芸能をテーマとした素朴で味わい深い木版画の世界。図工・美術教育にも情熱を注いだ作家の制作活動を振り返る展示会。

「阿吽（あうん）佐渡の鬼太鼓（おんでこ）と日本のまつり」展は好評であった。オープニングでは高橋市長をはじめ多くの関係者の参列で開幕を彩っていただいた。当館はマスコミにもたびたび取り上げられてきたが、この企画展期間中、集中的に大きく扱われることが多く、岩手日報、岩手日日の新聞記事に取り上げられた。また、TVではめんこいテレビの「ハッピーサタデー」、テレビ岩手の「ニュースプラス1いわて」、盛岡のタウン情報誌「acute」などで美術館やこの記念事業が紹介された。特に岩手日報では「太陽の画家」という特集記事を3日間にわたって紹介していただき、改めて利根山画伯の功績を顕彰する機会となった。

なんとと言っても常設展示室に入室したとたん目に入る2点の大作「阿」「吽」は鑑賞された方々誰もが驚く迫力をもつ。佐渡で管理する観光会社も、近年はおそらく展示場所や保管場所に悩む状態だったと思われる。しかし、一旦本館の常設展示室に収まってしまえばなかなか堂々とした佇まいで、壮観である。報道を見てこの作品を目的に来館したという方も多かった。

板に描かれたこの作品は一気に描き上げられたものと思われるような勢いのあるタッチで、色とりどりの絵の具も飛び散っているとといった印象。鬼太鼓という芸能は北上の鬼剣舞に近いが、この2点を見ていると宇宙的な壮大さを感じ、この記念事業のシンボルとしてまぎれもない存在感を発揮した。

コラボレーション企画となった特別展「鹿踊（ししおどり）とメキシコのまつり」（北上市立博物館）には鬼の館より借用した20点のメキシコのお面（利根山家より寄贈）も展示し、コンパクトだがメキシコ情緒あふれる魅力的な展示となった。メキシコのお面はユーモラスで妖しい魅力にあふれていた。思いがけず市の施設三館（当館・博物館・鬼の館）の連携の形がここに成立した。美術館発でこうした市の施設間コラボを創り出せたという点において意義があり、我々の自信となった企画でもあった。

（次号に続く）



●博物館・鬼の館・利根山光人記念美術館の三館連携企画展を実施

前期・中期の企画展において三館連携の企画展示を実施します。市立博物館は開館50周年を迎え、記念事業の年となります。詳細は後日、市広報等でお知らせします。

●今年度の専任研究員の勤務日

菊地仁美(日)(月) 齋藤正太郎(火)(水) 高橋浩生(木) 高橋平光(金)(土)

※変更する週もあります。